

がん検診早わかり - その4 -



～子宮頸がん検診～

子宮がんには、子宮頸がん（膣に近い部分）と子宮体がん（子宮の奥の部分）の2種類があります。子宮頸がんは若年層で増加傾向にあるため、20歳を過ぎたら検診が必要です。早期のうちほとんど自覚症状がありませんが、早めに治療すれば90%以上が治癒*します。

*治癒とは診断時からの5年相対生存率です。相対生存率とは、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数字です。

・検診方法（検査時間は15分程度）

- 1 医師が子宮頸部や膣の状況を診察（内診）
- 2 細胞診（ブラシなどで子宮頸部を軽くこすり、取れた細胞を染色し、顕微鏡で調べます）

【市の子宮頸がん検診結果(平成24年度)】

受診者数	要精密検査者数	子宮頸がん
2,215人	19人	1人

子宮頸がんは、HPV(ヒトパピローマウイルス)※への感染がきっかけとなります。ほとんどの場合は一時的な感染ですが、ごく一部の人で感染が長期間続き、がんに至ることがあります。*HPVは、一度でも性交渉の経験があれば感染している可能性があります。

《こんな症状があったらすみやかに医療機関へ！》

子宮頸がん	・月経とは無関係の出血 ・性交時の出血 ・おりものの異常 ・月経の量が増える ・月経が長引く
子宮体がん	・月経とは無関係の出血 ・おりものの異常 ・排尿痛 ・排尿困難 ・性交時の痛み



～乳がん検診～

乳がんは、罹患率・死亡率ともに一貫して増加していて、女性がかかるがんの第1位です。乳がんにかかる人は30代から増加し始め、50代前後を中心に最も多くなります。乳がんの発症には、女性ホルモン（エストロゲン）が大きく関わっています。早期に発見して治療すれば95%以上が治癒*します。 ※治癒とは診断時からの5年相対生存率です。相対生存率とは、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数字です。

・検診方法

- 1 超音波検査
- 2 マンモグラフィー検査（乳房エックス線検査）

【市の乳がん検診結果(平成24年度)】

受診者数	要精密検査者数	乳がん(早期がん)
2,727人	117人	6(5)人

・毎月1回の自己検診で早期発見

自己検診を続けることで、乳房の変化に気づくことができます。少しでも気になる症状がある時は、専門医の診察を受けましょう。（月経の直前や月経中は、乳腺が張ってしこりと間違いやすいため、月経開始後1週間頃に行いましょう）

・仰向けの姿勢でしこりの有無をチェック

調べる側の腕を下げた状態、上げた状態で、左右それぞれを調べます。

乳房のしこり、乳房のくぼみ、乳頭からの血清の分泌物、乳房の皮膚の赤い腫れ、わきの下のリンパ節の腫れ、腕のむくみ・しびれがあったらすみやかに医療機関を受診しましょう！

■問い合わせ■ 健康推進課 [総合保健福祉センター(かがやき)内] ☎54-7121